



『増えている帯状疱疹 … 2種類の帯状疱疹ワクチンの違い』



しもじ内科クリニック院長

下地 栄壮



帯状疱疹を発症する人が急激に増えていることをご存じですか？

子どもの頃に水痘（みずぼうそう）に罹ると、水痘・帯状疱疹ウイルス（VZV）が神経細胞に長期間潜伏し、過労や疲労によって免疫が低下した時などに「帯状疱疹」として発症します。成人の9割以上がVZVの抗体を持っていることから、ほとんどの人が帯状疱疹を発症する可能性があります。

帯状疱疹が増えている理由としては、社会の高齢化に伴い発症しやすい高齢者が増えていることに加え、水痘ワクチンの定期接種も原因と考えられています。2014年に小児に対する水痘ワクチンの定期接種が始まり、水痘の流行が激減しました。その結果、大人がVZVに接触する機会が減ったために“ブースター効果（体内で一度作られた免疫機能が、再度抗原に接触することでさらに免疫機能が高まること）”を得る機会が減っており、特に20～40歳代での増加が目立っています。

予防としては、できるだけ健康的な生活習慣を保つことが大切です。食事のバランスに気を付け、適度な運動と十分な睡眠を心がけましょう。また、ワクチン接種でブースター効果を得ることも可能です。

帯状疱疹ワクチンは、現在「ビケン」と「シングリックス」の2つの製品があり、以下の様な違いがあります。

●ビケン（乾燥弱毒水痘ワクチン）

種類：生ワクチン（細菌やウイルスの病原性を弱めたものから作られているワクチン）

対象：50歳以上

接種回数：1回

費用：7,000円(税込, 当院)

接種方法：皮下注射

発症予防効果：約70%（50～59歳）・約50%（60歳以上）

帯状疱疹後神経痛：66.5%軽減（60歳以上）

持続期間：5年程度

長所：・費用が安い ・接種回数が1回 ・副反応の発現率が低い

短所：・予防効果が落ちる ・持続期間が短い

・妊婦や免疫が低下している人には接種できない



●シングリックス（乾燥組換え帯状疱疹ワクチン）

種類：不活化ワクチン（細菌やウイルスの感染力をなくしたものや、細菌やウイルスを構成する成分の一部から作られているワクチン）

対象：50歳以上 または 帯状疱疹に罹患するリスクが高いと考えられる18歳以上の者

接種回数：2回

費用：44,000円/2回(税込, 当院)

接種方法：筋肉注射

発症予防効果：約97%（50歳以上）・約90%（70歳以上）

帯状疱疹後神経痛：100%軽減（50歳以上）・85.5%軽減（70歳以上）

持続期間：9年以上

長所：・発症予防効果が非常に高い ・持続期間が長い

・免疫が低下している人にも接種できる

短所：・2回接種が必要 ・費用が高い ・痛みなどの副反応が比較的多い

どちらがいいのかと良く尋ねられます。費用・接種回数・予防効果などそれぞれにメリットとデメリットがありますので、違いを検討してご自分にあったワクチンを選んではどうでしょうか。



しもじ内科クリニック(nico nico studio)

東区三苦3丁目2-49(福岡銀行美和台支店隣り)

TEL:092-605-6300